

佳作

感動の贈り物

鹿児島県 鹿児島県立鹿児島中央高等学校一年 新名 莉久

学生の皆さん、学校がある日の昼食は何を食べていますか。購買部に売られているパン、学食など人それぞれだと思えますが、ほとんどの人が自宅からもってきた弁当を食べていることと思います。実は弁当はただの食べ物ではないことを知っていますか？

私は、中学三年生の夏から、受験のために入塾しました。志望校に受かるために学力を向上すべく、夏休みはもちろん、受験直前までかかさず自習できる日は塾に行き、一日中勉強をしていました。食事が摂れる三十分という短い時間の中で毎朝当たり前のように母から手渡されるお弁当をただ食べるだけで頭は勉強のことです。いっばいでした。

私が弁当の有難さに気付かされたのは、受験の前に塾で行われた激励会でした。たくさんの先生方が私達に激励の言葉をくださり、色々な話が飛び交う中、ある先生が突然私の名前を呼び、

「新名君、あなたは本当にお母さんに感謝なさい。毎

日毎日、塾に来るときは温かいお弁当を作って届けてくれるお母さんは本当にすごいと思う。私も尊敬します。だから、家に帰ったらまず、ありがとうと感謝の言葉を言いなさい。」

その言葉が言われたときは名前を呼ばれた驚きが多く、恥ずかしさもあって、笑ってごまかし、家に帰ってからも、ありがとうと言うことができませんでした。その日の夜には、受験のことで頭がいっぱいで、先生から投げかけられた言葉は心の中にしまったままとりました。しかし私はその言葉の意味をその後とても考えさせられることになるのです。

晴れて志望校に合格し、高校生になった私は、毎日昼食時間には、母が作ってくれたお弁当を友人と談笑しながら食べています。お弁当の有難さについて少し意識していたものの、今までとはさほど変わらないくらいの心境でお弁当を食べていました。お弁当があるのが当たり前、温かいのが当たり前という気持ちで食べていたお弁当。そんなとき一緒に食べていた友人が、

「新名君のお弁当は本当にバランスが良いよね。健康にも良さそう。」

と言われ、また別の友人からは、

「冷やしようんすごい！僕も食べたい。」

と言われたのです。友人が反応してくれたことに感動したと同時に、私がお弁当があって当たり前だ、と思っ

ていたことが間違이었다と気付かされました。また、あのとき先生が言った言葉が頭をよぎり、点と点がつながったように思い、その言葉の本当の意味を理解することができました。きっと先生が私に言いたかったのは、私のお弁当が出てきて当たり前だという考えが間違っているということだと思えました。母親は、いつも私のために朝早起きして、眠い中も必死に私の健康体調を考え、バランスを考えたお弁当を作ってくれていること、そのお弁当の中には頑張っているという母親からの応援が込められていることを知ったのです。そして、自分の子供のためにお弁当を作ってくれて、愛情をそそいでくれていることに意味、そして価値があるのだと、初めて理解できたとき、当たり前のお弁当が、感動のお弁当となったのです。そのことに気付いた日からのお弁当は、不思議と今までより一段と楽しく、おいしく食べることでできている気がします。

私は以前ユーチューブのショート動画でアンガールズ田中さんのお母さんが作るお弁当を他人が評価する動画を、偶々観たことがあります。お弁当に入っている冷凍食品が粘っこかったと他の人に指摘された田中さんは怒りを露にし、お母さんのお弁当はおいしいよと言いながら二人とも泣くというエピソードにとても胸をうたれました。母親の苦勞を知っているからこそ言えた言葉なのだと私は思いました。そして、この動画を観てお弁当は他

の物とは比べられないものだと思います。売られているものにしても、親や家族に作ってもらったものにしても、誰かが誰かのために愛情をそそいで作った、とても価値のあるものだから全部百点満点だと私は思いました。あの日以来私は、毎日家に帰ってきたら、

「今日もお弁当ありがとう。」

と母に一言告げてから弁当箱を取り出しています。しっかりと感謝を伝えることが大切だと学んだからです。

お弁当が出てくるのが当たり前ではない、愛情が込められているとても価値のあるものだと胸に刻み今、この文を書いていきます。いつか母親にももらったたくさんのお弁当に込められている愛以上のものを恩返ししたいです。

「ありがとう。」